

平成25年11月18日

軽井沢町議会

議長 篠原 公子 様

議会運営委員会

議会改革検討特別委員会

委員長 内堀 次雄

軽井沢町議会運営委員会・議会改革検討特別委員会合同視察報告書

1 視察日程

平成25年10月17日（木）～18日（金）

2 視察先及び目的

(1) 千葉県 流山市

- ①議会中継システム機器関係等
- ②議会ホームページのリニューアル等
- ③議会棟の無線LANの使用状況等

(2) 神奈川県 横須賀市

- ①予算決算常任委員会について
- ②議会IT化について

3 視察参加者

委員長 内堀 次雄
副委員長 大林 義博
委員 市村 守
委員 佐藤 敏明
委員 大浦 洋介
委員 袖山 卓也
委員 佐藤 幹夫
委員 土屋 春男
委員 土屋 正治
議長 篠原 公子
同行 儘田 郁夫 (財政課長)
同行 小林 信子 (会計課長)
随行 西墻 美智雄 (議会事務局長)
随行 篠原 昭 (議会事務局長補佐)

◎視察目的

- ①議会中継システム機器関係等
- ②議会ホームページのリニューアル等
- ③議会棟の無線LANの使用状況等

①議会中継システム機器関係等について

流山市議会の申し入れにより平成18年9月の定例会より、インターネットによる本会議の様を、ライブ中継及びオンデマンド(録画)の配信を始めた。

- ・一般質問は、ライブ中継の後、3日後にアップする。
- ・職員1名が議場カメラ・テロップシステムを操作。
- ・一日終了後に、議会中継用のデータを送信。
- ・後日、録画配信のための確認用データの確認。

平成18年当時に議場カメラ、テロップシステム設置及び委員会室モニターテレビ入れ替え、光ケーブル等の初期投資と、カメラ保守点検委託料、NTT回線使用料が掛かるが、システム自体は賃貸しているので、メンテナンスの作業はない。

ユーストリームを活用した委員会中継について

更なる、「議会の見える化」を試みる一つとして、平成22年4月より委員会に限り、ユーストリームによる委員会のライブ中継を実施した。

映像は、3台のカメラでパノラマ風にして、放映している。導入経費はウェブカメラ・無線LAN子機を安い経費で導入できた。

- ただし、配線環境に補償はなく、画面に商用広告が入り映像は加工できない。
- ユーストリームのホームページとなり、議会公式ページではなくなる。

②議会ホームページのリニューアル等について

市民の声を政策に反映し行政と議会の二代表制を明確にするための、議会独自のホームページのリニューアルに着手し、NTT-AT議会情報公開用CMSのディスカスウェブを採用する。

「分かりやすく見たくなるホームページ」をコンセプトに協議し、住民からの各ページのアクセス数をもとに、日程・スケジュール・アンケート結果はトップページに配置する。

フェイスブックは、公開の形をとっているが、コメントは会員のみになっている。

CMSは、ウェブサイトのコンテンツを一元管理するシステムで、簡単に更新・管理できホームページ作成への住民参加が可能となり、住民が議会への関心を高める事ができる。

また、ディスカスウェブは、ツイッターやフェイスブックなどSNSと簡単に連携でき、タブレットやスマートフォンなどでリアルタイムに住民との双方向の情報共有が可能となる。

サーバーは、NTT-ATのデータセンターに置くクラウド型サービスなどで、サーバー等の初期投資が不要でランニングコストも抑えられる上、災害時などでも安定的に運用できる。

③議会棟の無線LANの使用状況等

議会内に無線LANルーター3箇所と議場内に採決の為のLANを設置
本会議場・平成22年、議事堂・平成23年から実地

電子投票システム導入事業

- ・本会議場の採決に各自に配られているスマートフォンで行う。
- ・近々、タブレットに変えて採決を行う。

議員の情報活用能力活用環境の向上

○インターネットを利用した情報収集・発信力の向上

- ・新聞記事検索データベースの活用、先例集、例規集、会議録（本会議、委員会）索引、意見書、議決索引、図書室蔵書索引、議会保存の支部局で作成した各種計画書等資料の検索等の電子化を図る。
- ・庁内LAN（イントラネット）への議員の限定アクセス権

○議会内のペーパーレス化を促進

- ・各種案内通知書、発言通告書、議案書、予算・決算書及び各種関係資料予決指摘要望事項等の電子化

◎考察

先進的なICTシステムを導入し、住民が議会から素早く分かり易く簡単に情報を得るとともに意見の交換を図っている。

しかし、議会内へのICT化が進んでいるが、議員の中には機器などの取り扱いに不慣れな人、議場内のパソコンの持ち込み並びに、インターネットへの接続が禁止となっているが、研修などにより議員の資質の向上を図り、ICTによる利便性を多いに活用していく必要があると思う。

ペーパーレス100%を目指してはいるが、場合によっては紙媒体による方が便利であるためなかなか100%実施は難しい。

いずれにしても、世の中はICT化に向かっており、議会のICT化はさけて通れない。色々なコンテンツを使い住民への公聴広報を図り、議会への住民参加・住民との協

働のまちづくりを実現していかなばいけない。

(2) 神奈川県 横須賀市 — 平成25年10月18日(金) —

◎視察目的

- ①予算決算常任委員会について
- ②議会IT化について

①予算決算常任委員会について

○設置目的

従来の分割付託による審査方法は、各委員会での表決結果が異なる可能性がある等の矛盾が生じることから、これを解消する。

予算審査と決算審査を同一議員が行うことにより、総合的・一体的な審査を行う。

○設置の経過

- ・平成20年10月より「第3次議会制度検討会」において、延べ18回検討を行う。
- ・平成22年6月 予算決算常任委員会設置に関する答申
- ・平成23年2月 同委員会の運用に関する答申
- ・平成23年3月 予算決算常任委員会運営要綱制定

○委員会構成

- ・予算決算常任委員会は、議長を除く全議員で構成
- ・予算決算常任委員会の下部組織として、分科会（従来の4常任委員会の審査方法と同じ）を設置
- ・予算決算常任委員会の運営に関する事項を協議するため、理事会を設置

○予算決算常任委員会への付託議案等

- ・予算、決算と関連し、かつ複数の分科会に関連するもの
- ・基金の設置など予算の根幹に関わるもの
- ・手数料条例に係るものなど歳入予算を伴うもの

予算決算議案審査の流れ

(1)理事会 議案の付託先を決定

↓

(2)議会運営委員会

↓

(3)本会議

↓

- (4)予算決算常任委員会（全体会）本会議から付託された議案を各分科会に送付
↓
(5)分科会 詳細審査、採決は行わない
↓
(6)理事会 予算決算常任委員会（全体会）の進行を決定
↓
(7)予算決算常任委員会（全体会）分科会委員長報告、
締め括りの総括質疑、討論・採決
↓
(8)本会議

予算決算常任委員会設置による効果

- ・分割付託解消による円滑な議案審査
- ・同一議員が予算決算審査を行うことによるチェック機能の強化
- ・議案採択を行う本会議の開催時間の削減

②議会 I T 化について

○インターネット中継は、本会議は平成 15 年 9 月より、委員会は平成 20 年 12 月より実施している。

委員会中継に要する経費

- ・初期構築費（平成 20 年度）14,170 千円
- ・運用経費 1,810 千円／年

○市議会 L A N システムの構築

- ・主な運用としてメールによる通知（開催通知など）、資料等の配布、また市議会事務局からの各種情報の提供等、議会内サーバーでのデータの共有
- ・システム導入・運用費用
初期構築経費（平成 19 年度）14,954 千円
運用経費 7,900 千円／年

◎考察

予算決算常任委員会（全体会）は、議長を除く全議員で構成し、委員会の下部組織として、部門別常任委員会（従来の 4 常任委員会）及び特別委員会に対応した分科会を設置し、予算決算議案等の詳細な審査、または調査を行っている。（基本的には従来の 4 常任委員会の審査方法と同じである。）また、運営に関する事項等を協議するため、各常任委員会の正副委員長で構成する理事会を設置しているところに特徴がある。

全体会では、分科会委員長が分科会における主な質疑を報告し、複数の分科会にまたがる内容及び政策的な判断を求める内容については、総括質疑を行うことができるとし

ている。

予算審査と決算審査の違いについては、決算議案審査は、会計管理者の報告を受けた後、監査委員からの報告を聴取し、質疑を行い、その後分科会へ送付するところにある。

常任委員会設置による効果としては、分割付託解消による円滑な議案審査が強化できること、また同一議員が予算決算審査を行うことによるチェック機能の強化、議案採決を行う本会議に開催時間の削減が考えられる。

当町議会においては、2常任委員会であることから、下部組織としての分科会設置については検討する必要があると考える。

議会IT化については、本会議は平成15年9月から、委員会は平成20年12月からインターネット中継を実施している。課題と対応で主なものは、発言及び円滑な運営のための持ち時間制、傍聴者撮影の告知と事前承諾の取得、請願者等の住所・氏名の朗読は行わないこと、個人情報や不適切発言への対応としては音声の削除などを行っている。